

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の学習成果と学位論文等審査基準の対応マップ

		卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の学習成果		
		1～3	4～5	6
学位論文審査基準	1		○	◎
	2	◎	◎	
	3	◎	◎	
	4	◎	◎	◎
	5		○	◎
	6			

自然科学研究科数学専攻博士前期課程の学位論文を評価するためのルーブリック

	模範的	2 番目の段階	最低段階
研究課題の明確性及び先行研究を踏まえての的確性	先行研究を的確に把握し、明確な問題意識のもと、研究課題を適切に設定している。	先行研究の把握および問題意識は一定の水準にあり、それに基づいて研究課題を設定している。	先行研究の把握は十分でなく、問題意識も明解でないため、研究課題の設定が適切でない。
課題を追求する上で方法論の適切性	背景となる基礎知識を習得した上で、先行研究を十分に理解し、研究課題の論理的もしくは実証的な考察を適切におこなっている。	背景となる基礎知識の修得、および、先行研究の理解いずれも一定の水準にあり、研究課題の論理的もしくは実証的な考察をおこなっている。	背景となる基礎知識の修得、先行研究の理解、ともに十分でなく、研究課題の考察を論理的にも実証的にも適切におこなっていない。
研究方法及び調査方法の妥当性	先行研究を幅広く調査した上で、研究課題を研究分野全体の中で適切に位置付けている。	研究・調査方法が妥当で、一定の信頼性と有効性がある。	研究・調査方法に改善点はあるが、基本的には妥当。
結論の妥当性	結論が非常に妥当で、論理的に導かれている。	先行研究を一定程度調査し、それに基づいて研究課題を研究分野全体の中で位置付けている。	先行結果の総合報告を含めて、結論の論理性が十分でない。
研究の独創性と研究分野への貢献	先行結果の総合報告や再構築を含めて、結論に独自の視点が認められ、論文が研究分野への重要な貢献を果たしている。	先行結果の総合報告や再構築を含めて、論文が研究分野への一定の貢献を果たしている。	結論における視点に独自性はなく、先行結果の総合報告や再構築としても十分でないため、論文は研究分野への貢献を十分に果たしていない。
その他	論文内容は論理的に正しく記述されており、論文構成も的確である。	論文内容の論理的、論文構成、いずれも一定の水準を満たしている。	論文内容の論理性は不十分であり、論文構成も的確でない。